

【がんばる市内企業の事業活動や事業展開を紹介します】

福 栄 堂

～「おいしい」の一言を経営の原点に～

◇所在地 大洲市肱川町山鳥坂
◇電 話 34-2508

がんばる大洲企業



弊店は、屋号の「福栄堂」として創業以来、およそ65年にわたり、和菓子専門店として歴史を刻んでいます。弊店では、主に最中、ようかん、タルトなどを販売していて、今も昔ながらの製法を守り、変わらぬ味を伝えたいです。

材料には厳選した北海道産の小豆を使用しています。また、人工の甘味料や保存料は一切使用せず、材料の納入元にも厳しい品質管理を求め、製造にはこだわりを持って取り組んでいます。家族による手作り作業のため、時期によっては品薄状態となってしまう、「事業規模をもっと大きくしてはどうか」というご意見をいただくこともあります。しかし、大量生産よりも商品の品質



を守ることに重要で、そのためには現状を維持していこうと考えています。

弊店の主力商品の「文楽最中」は、肱川町の郷土芸能であり、愛媛県の有形民俗文化財に指定されている「大谷文楽」にちなんで命名されました。創業とほぼ同時期に名づけられた「文楽最中」は、多くの人に親しまれています。

今後は、インターネットなどを通して顧客を獲得したいと考えていますが、数多く商品を売るよりも、おいしく食べてもらいたいという思いもあります。

お客様からいただく「おいしい」の一言が、弊店の原点だと思っています。これからも、昔から伝わる製法を守りつつ、焦らず、じっくりと、真面目にお客様と向き合っていこうと思います。

文化財

藤縄三島神社社叢
大洲市指定天然記念物
藤縄三島神社所有



本社叢のある藤縄三島神社は、言い伝えによると天平年間（729～749）に立川（内子町）の川中三嶋神社へ分神祭祀したとされており、それ以前にこの地域に祭られていたものと考えられています。

神社の境内を取り巻くように広がる約1,000㎡の社叢には、目通り周約4mにもなるタブノキ10本をはじめ、アラカシ、ウラジロガシ、ツブラジイ、イスノキなど年数を経た常緑樹の巨木が密集しています。

このように巨大な常緑樹が密集する社叢は、市内でも数少ないことから、とても貴重と言えます。

（昭和45年8月30日指定）

野 鳥

ヤツガシラ（戴勝）
ブッポウソウ目ヤツガシラ科
大きき28cm



早春の渡りの頃、県内のどこかには現れる、めずらしい旅鳥です。人間の生活圏などはお構いなしで、芝生があれば人家近くの公園や広場など、どこにでも出現します。大ききはハトよりも少し小さくスマートな体形で、薄茶色に黒の虎模様、細いくちばしと、それと同じくらいの長さの冠羽を持ち、時折開ける扇のような頭の羽根により、他の鳥と見間違ふことはありません。最近では、ウォーキングをする人たちをよく見かけるようになりました。もう一つ欲張って、双眼鏡を片手に、あなたの知らない世界をのぞいてみてはいかがでしょうか。鳥たちとの出会いはきっと感動の連続で、人生を豊かにし、心身の健康増進につながると思います。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④

¡Hola! (オラ。／こんにちは。)

今回は、先日の「出張」の様子をお伝えしたいと思います。

この「出張」の目的は、ソモトという町の隊員が行っている算数教室のお手伝い。彼らは普段、手工芸・リハビリといった分野で活動していますが、「自分たちの町のために、もっと何かをしたい」という思いから、余暇を利用して算数教室を行っています。

私の任地からソモトまでは、バスを乗り継いで7時間。長旅でお尻が痛くなり、ちょっと疲れましたが、ソモトの街並みを歩き、地元の人と話していると元気が出てきました。



ソモトの風景



算数教室の様子

午後6時、隊員4人、子ども4人による算数教室が始まりました。子どもたちは、それぞれの課題に応じて足し算・引き算・かけ算などの問題に取り組みます。私たち隊員も真剣そのもの。「どうすれば九九を覚えてくれるだろうか?」「どうすればもっと早く足し算ができるようになるだろうか?」と考えながら、一生懸命指導します。今年3年生になるアレイスカちゃんは、隊員の末木さんとカードを使って九九を勉強。努力の甲斐あってこの日、6の段までマスターしました。時間はあっという間に過ぎ、塾が終わったのは7時半近く。別れ際、エルビン君が「授業に来てくれて、ありがとう」と声をかけてくれました。

ニカラグアの「出張」はちょっと大変でしたが、ソモトの隊員の真剣な思いに触れ、子どもたちと勉強することができ、貴重な経験となりました。

大洲市消費生活センター通信

頼んでいないのに届く商品に要注意!

「以前ご注文いただいた健康食品を、今から送ります」などと突然電話があり、「注文していない」と断っても商品が送られてきたという相談が、高齢者を中心に全国的に増えています。

事業者名や連絡先を聞いても答えてくれない、断っても強引に代金引き換えで送ってきた、なかには注文の録音があるなどと言われたケースもあります。商品は健康食品のほか、カニなどの海産物の場合もあります。

【被害にあわないために】

▽電話がかかってきた時は……

申し込んだ覚えがない場合は、「注文していない、知らない」とキッパリ断りましょう。

▽商品が送られてきたら……

断ったにもかかわらず送られてきた、また、注文した覚えのないものが送られてきたら、家族に確認し、確認が取れない場合は、受け取らないようにしましょう。その際、事業者名・住所・電話番号をメモしておきましょう。

代金引き換えで送られてきた場合も、支払う前に注文をしたかどうか確認しましょう。一方的に送りつけられた場合、支払う必要はありません。

▽断りきれず承諾した時は……

契約書を受け取った日を含めて8日間はクーリング・オフができます。

おかしいなと思うことがあれば、早めに消費生活センターへご相談ください。

【問い合わせ先】

大洲市消費生活センター
☎24 1790

【相談受付時間】

午前9時～正午
午後1時～5時
※月曜日～金曜日（祝祭日除く。）

挿絵：愛媛県消費生活センターから



シリーズ・大洲市地域づくり表彰

「大洲市地域づくり表彰」を受賞されたみなさんを、シリーズでご紹介します。

【青木さんからのメッセージ】

五郎地区では、30年以上続く喜多小学校の児童を対象にしたソフトボール活動や、公民館で行われる親子体験学習など、さまざまなイベントなどを通じて、子どもたちと積極的に触れ合う機会を設けています。



今後、子どもたちが、五郎分館のスローガンである『出会い 触れあい 助け合い』の下、多くの経験を積み、コツコツと努力できる大人に成長することを願っています。

私たちも、子どもたちの笑顔を力に変えて、活動を続けていきます。



青少年育成に貢献

青木 けんいち 憲一さん（五郎）

【加地さんからのメッセージ】

私たちは、みなさんが快適に通勤・通学ができるように、平日の毎朝、店舗周辺や道路沿いの清掃活動を行っています。

掃除を行うことで、日頃からご愛顧いただいているみなさんへの恩返しになればうれしいです。



今後も清掃活動を継続していこうと考えていて、単に環境美化だけを目的とするのではなく、市民のみなさんとあいさつを交わすことで、親しみある支店づくりにつなげていきたいと思っています。



環境美化に貢献

愛媛信用金庫大洲支店
支店長 加地 やすひろ 泰博さん（肱北）

【下石さんからのメッセージ】

垣根クラブでは、17人の会員が平成11年（3月）に閉校となった岩谷小学校のグラウンドや、自治センター周辺の花壇の整備を行っています。

道行く人の目を楽しませたいという思いもあり、道路にある落ち葉などをたい肥に活用し、四季折々の花を育てています。



今後も、地元を美しくする気持ちや忘れずに、活動していきたいと思っています。ぜひ一度、岩谷地区を訪れてみてください。



環境美化に貢献

垣根クラブ
代表 下石 フキ子さん（岩谷）



2月18日(月)

坂本龍馬脱藩の軌跡を写真で表現 ～河辺龍馬脱藩フォトコンテスト～

大洲市観光協会河辺支部主催の第4回フォトコンテストが開催されました。

今回は坂本龍馬脱藩150年にちなみ「河辺龍馬脱藩フォトコンテスト」と題し、市内全域での龍馬関連イベントや観光施設、自然などの写真を募集し、市内外から作品の応募がありました。

応募作品は4月から8月まで、河辺ふるさとの宿で展示されます。ぜひ、ご覧ください。



2月17日(日)

人権と福祉の充実を目指して ～人権を考える仲間の集い～

櫛生福祉センターで人権祭り・ふれあい広場が開催されました。

会場では地元の児童・生徒による人権作文発表が行われ、人権標語、ポスター、櫛生サロン会による習字などが多数展示されました。また、「阪神・淡路大震災に思う隣保館と(命)」と題した中尾由喜雄先生の講演が行われ、参加者たちは差別のない社会づくりの大切さを再認識していました。



3月4日(月)

それぞれの願いを込めて ～ひな流し～

肱川支所裏の河原で、肱川・河辺幼稚園児による「ひな流し」が行われました。

この行事は、中断されていた時期もありましたが、肱川支部老人クラブのみなさんの強い思いから、約20年前に復活し、今も継続されています。

ひな流しに参加した園児たちは、お手製のひな人形が水の流れに乗りゆっくりと流れていく姿を見て、手を振りながら笑顔で見送っていました。



2月17日(日)

熱戦が繰り広げられました ～肱川レクリエーションバレーボール大会～

肱川町の農業者トレーニングセンターで、毎年恒例の肱川レクリエーションバレーボール大会が行われました。

今年は9チーム計80人が参加し、3ブロックに分かれて行われる予選リーグや順位決定戦を楽しみました。

どの試合も白熱した展開になり、選手たちは一生懸命にボールを追いかけていました。